

研究集会

縄文研究の地平 2017

—土器から探る勝坂式と加曽利 E 式の間—

日時：2017年3月4日（土）
10:00～17:00（開場 9:30）

場所：中央大学多摩キャンパス
3号館3354教室



アクセス：多摩モノレール中央大学明星大学前

<趣旨>

縄文時代研究において、大別時期とは別に文化や社会の画期を設ける動きがある。縄文時代中期の武蔵野・多摩地域の勝坂3式(新地平編年2016の9期)と加曽利E1式(新地平編年2016の10期)の「間」も、土器系統の断絶ないし新しい土器文様の移入などが頻繁に指摘されている。このような状況を周辺地域はどのように見ているのだろうか。勝坂3式(9期)と加曽利E1式(10期)の時間の「間」、地域の「間」、系統の「間」、社会集団の「間」などの様々な「間」について、当該期に併行する埼玉、栃木・茨城、千葉、山梨、神奈川各地の流域ないし地形単位の土器と武蔵野・多摩地域の土器を比較しながら、縄文時代中期中葉から後半にかけての武蔵野・多摩地域における文化変化の実践例を示す。

10:00-10:30 勝坂3式と加曽利E1式の「間」を取り巻く文化的諸問題(山本典幸)

10:30-11:00 勝坂3式の多様な系統と加曽利E1式との「間」(中山真治)

11:00-11:30 加曽利E1式の多様な系統と勝坂3式との「間」(黒尾和久)

11:30-12:00 荒川中流域の勝坂3式と加曽利E1式(徳留彰紀)

13:00-13:30 奥武蔵地域の勝坂3式と加曽利E1式(熊澤孝之)

13:30-14:00 鬼怒川・小貝川流域と那珂川流域の
勝坂3式／阿玉台IV式と加曽利E1式(塚本師也)

14:00-14:30 甲府盆地周辺の勝坂3式と曾利I式／加曽利E1式(今福利恵)

14:30-15:00 相模川・鶴見川流域の勝坂3式と加曽利E1式(小林謙一)

15:20-17:00 討論と会場からのコメント

参加費無料・申し込み不要

問い合わせ先 山本典幸 noriyuki02@aol.com